

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 10月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	0197400047		
法人名	特定非営利活動法人 リスペクト		
事業所名	認知症高齢者グループホーム碧水		
所在地	北海道雨竜郡北竜町字碧水15番地の2 (電話) 0164-34-3788		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年10月22日	評価確定日	平成21年11月2日

【情報提供票より】 (平成 21年 10月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 20年 11月 17日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 6人、非常勤 4人、常勤換算 7.0人

(2) 建物概要

建物構造	耐火構造木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:27,000円 暖房費:9,000円(10-4月)	
敷金	有(円) <u>無</u>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (10月 22日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	0 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.25 歳	最低	76 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	深川市立病院 北竜町立診療所 北竜町立歯科診療所
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

稲作地帯の自然豊かな場所に位置したホームで、近くに比較的交通量の多い国道が走っており、交番やコンビニ、バス停などもある。敷地は広く、利用者が世話する畑や、犬が遊ぶスペースも設置されている。開設して1年で、建物は新しく、風呂やトイレも広く清潔で、共用空間は窓が多く開放的である。各居室には洗面台や冷暖房が整備されている。町内唯一のグループホームとして地域に受け入れられ、地域との交流も活発である。内部研修・外部研修とも充実しサービス向上に取り組んでいる。利用者が外に行く場合も一緒に付いて行き納得してから迎えに行くなど、本人本位の介護を実践している。看護師を配置し、医療面の安心も確保している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	新設のため自己評価・外部評価とも今回が初めてである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者と1名の職員を中心に他の職員の意見を聞きながら作成しているが、全職員による積極的な理解と作成とまではまだ至っておらず、全職員の参加やガイドブックの活用などの取り組みを期待する。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地域包括センター長、自治区会長、老人クラブ会長、利用者家族などが参加して2月に1度開催されている。サービス内容などをテーマに意見交換され、議事録も整備されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や運営推進会議で家族の意見を収集しており、意見を運営に反映している。また玄関に意見箱を設置し、入居時の契約書類にホームの相談窓口や外部の苦情受付機関を明示している。しかし「ホームだより」などはまだ作成しておらず、今後の提供が期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の買い物の際に、他の利用者に挨拶するなどして地域の方に顔を覚えてもらっている。また、利用者はコミュニティセンターでのレクリエーションや夏のビールパーティーにも参加している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本ケア理念の中の項目に「地域の方々との交流を大切にしながら・・・」という文言があり、地域密着型サービスとしての理念をつくっているが、現在の理念をもとに、職員全体の意見を聞きながら再度理念を作り上げる方針としている。	○	理念を再検討する際に「地域の中でその人らしく暮らし続けることを支える」も含めて、独自の理念を検討されるよう期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念はパンフレットなどに記載され、ある程度共有化されているが、今後新たな理念をもとに再度共有化を進める意向である。	○	新たな理念をもとに職員、利用者、利用者家族も含めた理念の共有化と実践を期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の買い物の際に、他の利用者に挨拶するなどして地域の方に顔を覚えてもらっている。また、利用者はコミュニティセンターでのレクリエーションや夏のビールパーティーにも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	新設のため自己評価・外部評価とも今回が初めてである。自己評価は管理者と1名の職員を中心に他の職員の意見を聞きながら作成しているが、全職員による積極的な理解と作成とまではまだ至っていない。	○	自己評価の作成にあたっての全職員の参加とガイドブックの活用、また外部評価で挙げられた項目の積極的な取り組みを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括センター長、自治区会長、老人クラブ会長、利用者家族などが参加して2月に1度開催されている。サービス内容などをテーマに意見交換され、議事録も整備されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町内初で唯一のグループホームであり、地域包括センター長が運営推進会議に参加するほか、管理者が町の住民課の介護保険担当者と日常的に連絡を取り合っており、十分に情報交換ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の様子を報告したり、受診時の電話報告を行なっているが、「ホームだより」などは作成しておらず、個々の金銭出納の報告も3ヶ月に1度とやや頻度が少ない。	○	利用者の日々の暮らしぶりが分かるような「ホームだより」などの家族への定期的な提供を期待する。また金銭管理の報告は、頻繁に来訪する家族、しない家族の状況に合わせて毎月報告するのが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議で家族の意見を収集し運営に反映している。また玄関に意見箱を設置し、入居時の契約書類にホームの相談窓口や外部の苦情受付機関を明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新設のため職員の退職や異動はまだ少ない。担当者が替わる場合でも利用者のダメージが少なくなるように工夫しており、過去にダメージがみられたケースはない。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議の中で管理者講師による内部研修がMRSA、認知症ケア、事故などをテーマに開催され、ほぼ全員が参加している。各職員は外部研修も年に数回受講しており、旅費などもホームが支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	立ち上げ時から交流のある滝川市のグループホームとの交流を行っており、管理者だけでなく職員も含めた活発な交流ができています。今後も交流の成果をサービス向上につなげる方針としています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前になるべく本人が見学した上で入居しているが、本人が来られない場合は管理者や職員が本人を訪問し、馴染みの関係を築くようにしている。入居時に家の馴染みのものを持ってきてもらったり、家族の協力による居室の環境づくりを行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は特に若い職員や新人職員には昔話や良かった時代の話をしてくれ、最近は機会が減少しているが料理方法なども教えてもらっている。その他、掃除や除雪などを手伝ってもらいお互いに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のしぐさや表情から思いや希望を把握するようにしており、情報を1日2回の申し送りや連絡帳、毎月の職員会議などで共有している。センサー方式による利用者の情報シートを作成して共有化を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族の思いや意見を聞き、担当看護職員と管理者が中心となりアセスメントシートを利用しながら作成している。今後は「サービス担当者会議」を開催し、全職員の意見を集約して介護計画を作成する方針であるが、現在は未実施である。	○	職員の意見集約が図られる「サービス担当者会議」の計画的な実施による介護計画の作成および見直しを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月毎にモニタリングを行ない見直しを行っている。骨折や身体状況に変化が生じた時は直ぐ見直しを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診は家族送迎を基本としているが、遠方からの利用者には職員が通院支援を行っている。理美容の送迎や入居時の荷物の運搬の手伝いなど柔軟に支援している。フットセラピストが月1回訪問し、利用者へのマッサージなどのサービス支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向に添ってかかりつけ医への受診を継続している。職員が通院支援した時は結果を家族に報告し、家族送迎の受診時には、健康状態を口頭で報告したりFAXで家族に知らせたうえで家族から受診結果を聞き、健康状態の把握に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	24時間の医療連携体制や看取りに関する事業所の方針を、「重度化した場合における対応の指針」として書類を作成し、利用開始時に説明して同意書をもっており、利用者の状況の変化に応じて都度相談して対応を決めて行く方針である。事業所内でも職員間で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報などの記録物は事務所で保管している。日々の記録は居間の職員専用スペースで利用者に配慮しながら記入している。管理者は、排泄の声かけ時は耳元で話しかけるよう配慮したり、マイナス的な言葉は使わないように指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な食事時間は決まっているが、日々の決められた日課は特になく、それぞれの利用者の希望に沿って過ごせるように支援している。煙草の好きな利用者は喫煙室で煙草を吸ったり、事業所の3日毎の買い物に職員と一緒に出かける利用者もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、配膳や下膳、下ごしらえなどを職員と一緒にっており、献立は、以前管理者が勤務していた老人ホームの献立を参考にして、利用者の希望を聞きながら職員全員で3ヶ月毎に作成している。一方、職員全員が必ずしも利用者と同じ食事を摂ってはいない。	○	利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じ食事を摂ることが望ましく、より一層楽しい食卓になるように、食事内容について全職員で検討されるよう期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日午後に利用者の希望に合わせて週2回以上出来るように支援している。一人で入浴が可能な利用者には、声かけや見守りを行いながら楽しんでもらうようにしている。入浴を拒否する時は時間を変えて声かけしたりシャワー浴などで対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者に応じて、食事の準備や料理の下ごしらえ、後片付けなどを一緒に行っている。職員とともにオセロや囲碁、風船バレーを楽しんだり、畑仕事、懐メロなどを楽しんでいる。誕生会には、みんなでケーキやちらし寿司を作り行事を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々利用者の希望を聞きながら、3、4人で近隣を散歩したり、コンビニへ買い物などに出かけている。冬季は玄関で雪だるまを製作したり外気に触れる機会を工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠している。玄関ドアにセンサーを設置して利用者の出入りを把握し、台所の窓から様子を見たり、利用者の外出に職員も同行して満足するまで散歩をするなど安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て4月に夜間を想定した避難訓練を近隣住民とともにやっている。今後も、近隣住民参加の避難訓練を定期的に行なっていく予定である。災害時に備えた非常食を備蓄している。	○	消防署の指導のもと、救急救命講習の計画が立てられているので、全職員が定期的に受講するような取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの利用者の水分摂取量や食事摂取量は個別に記録し、職員全員で情報を共有している。献立は管理栄養士に見てもらう事で、専門的アドバイスを受ける予定である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は庭で咲いた菊の花などが飾られ、季節感が感じられるように配慮されている。廊下や居間は間接照明で温かな光になるような工夫がされ、大きな窓も多く開放的な共有空間である。台所は対面式のカウンターで、食事の支度の様子や料理の匂いなど生活感が感じられる。一方、各居室やトイレの表示、壁などの装飾は必ずしも家庭的ではない。	○	各居室やトイレ・風呂などの表示をより家庭的なものにして自分の家という意識が高まるような工夫や、壁などには利用者の作品や写真、季節の装飾などを施し、生活感や季節感が感じられるような装飾をするなどの工夫を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には冷暖房設備と洗面台が設置されている。それぞれの利用者に好みの物や使い慣れた布団やベッド、タンスなどを持ち込んでもらう事で、居心地良く過ごせるように工夫がなされている。		

※  は、重点項目。

※ 所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。